

平成31年度

指導の重点・主な施策

とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を



戸田市教育委員会



「指導の重点・主な施策」について

次期学習指導要領が平成32年度から小学校、平成33年度から中学校で全面実施となる。これまでも育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、これからの時代に求められる子供たちが身に付けるべき資質・能力が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で再整理された。こうした資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善をさらに充実させていくことが重要である。

戸田市教育委員会では、「戸田市の教育振興に関する大綱」（平成28年4月策定）及び「第3次戸田市教育振興計画」（平成28～32年度）を基盤に、国や県の動向や各学校の実態を踏まえ、次期学習指導要領への移行が確実かつ円滑に実施できるようにする。また、これからの変化の激しい時代を生き抜くための力を子供たちに身につけられるよう、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、産官学民との連携を図りながら各施策を実施する。

本「指導の重点・主な施策」は、各学校で行う教育活動の指針を編集したものである。各学校においては、自校の実態に即して本冊子を十分に活用し、平成31年度の指導の重点を明確にし、学校教育の充実を図られたい。

第3次戸田市教育振興計画

★基本理念：生き生きと 共に育む 教育のまち 戸田

★キャッチフレーズ：とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を

★基本目標1：やり抜く力を育む教育を推進する ～確かな学力と生徒指導の充実を図る～

1 確かな学力の育成 2 豊かな心の育成 3 健やかな体の育成 4 国際社会で活躍できる人材の育成

★基本目標2：よりよい教育環境を整備する ～官学民及び家庭・地域と連携し、知のリソースの活用を図る～

1 新しい学びの創造 2 教員の資質向上・支援 3 学校施設・設備の充実 4 特別支援教育の充実

★目指す児童生徒「とだっ子」像

希望をもち、思いやり、未来を拓くため 最後までやり抜く児童生徒

■平成31年度 戸田市立小・中学校における標準授業時数について

<小学校>

	各 教 科									特別の教科である 道徳	外国語 (英語) 活動 ※	総合的な学習の時間		特別 活動	総授業 時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育			総合的な学習の時間	カリマネの時間 ※		
第1学年	306	*	136	*	102	68	68	*	102	34	*	*	*	34	850
第2学年	315	*	175	*	105	70	70	*	105	35	*	*	*	35	910
第3学年	245	70	175	90	*	60	60	*	105	35	70	20	15	35	980
第4学年	245	90	175	105	*	60	60	*	105	35	70	20	15	35	1015
第5学年	175	100	175	105	*	50	50	60	90	35	70	55	15	35	1015
第6学年	175	105	175	105	*	50	50	55	90	35	70	55	15	35	1015

<中学校>

	各 教 科									特別の教科である 道徳	総合的な学習の時間	特別 活動	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語 (英語)				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

※小学校中学年における外国語（英語）活動の実施について

本市全小学校は、中学年の「総合的な学習の時間」を35時間削減し、外国語（英語）活動を35時間実施することが可能となっている。これは、学習指導要領等の教育課程の基準によらない特別の教育課程の編成・実施を可能とする特例校（教育課程特例校）（平成21年2月23日文科科学大臣承認）となっていることに基づくものである（期間は、次期教育課程変更日まで）。

※次期小学校学習指導要領における外国語（英語活動）活動及び外国語（英語）科への短時間学習の導入について

次期小学校学習指導要領では、中学年において外国語（英語）活動が、高学年において外国語（英語）科が導入され、それに伴い、全国的には3年生から6学年までの授業時数が、それぞれ年間35時間ずつ増加される。

本市の中学年の外国語（英語）活動については、平成15年度から35時間実施しているが、さらなる英語教育の充実を図るために35時間増とし、合計70時間とする。中学年、高学年で増加する35時間の実施方法については、15分間の短時間学習を3回行うことにより1単位時間（45分間）に換算することとする。

なお、低学年については、短時間学習も含め20時間程度とする。

※カリキュラム・マネジメントの時間の設定について

小学校は平成30、31年度は移行期として、総合的な学習の時間の35時間のうち、15時間をカリキュラム・マネジメントの時間としている。カリキュラム・マネジメントの時間は、本市で推進している産官学民の知のリソースを活用して、先行的にプログラミング教育や経済教育等に取り組むなど、各学校の特色を生かした取組に活用している。

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点からの**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。
- 本時の目標が達成できているか評価できるような評価規準が設定できたか。
- 子供の学習意欲を高められるような導入場面であったか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）

2 子供が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている子供たちへの）支援方法を準備し、実行することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の達成につながっていたか。

3 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか。
- 子供たちの考えを広げ深められるよう、教具（タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていたか。
- 子供たちの考えを板書（ホワイトボード等で示すことも含む）できたか。

4 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【主に深い学びの視点】

- 子供たちが本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。
- 子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。

5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの変容を評価することができたか。
- 評価するための方法や場を設定することができたか。
- 子供たちが本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。

●本ルーブリックは、戸田市アクティブ・ラーニング研究員による授業研究会の協議を基に作成し、「文部科学省委託事業 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究実施報告書」（平成30年3月）内に掲載。

●『指導用ルーブリック』のほか、これに対応した『資質・能力ルーブリック』『自己評価用ルーブリック（児童生徒用）』の3つのルーブリックを作成。（ここで示したルーブリックは、『指導用ルーブリック』のレベル2で示した規準）



指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイント ～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

エビデンスに基づく授業改善の取組の一貫として、埼玉県学力・学習状況調査の結果及び指導用ルーブリックを活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（36名）へのインタビューを行った。そして、インタビュー内容を基に、効果的な指導方法（グッドプラクティス）等についてまとめた。

子供の学力を特に伸ばしている教師への3つの質問内容

- ① 指導用ルーブリックで重視する項目について。
- ② 授業づくりについて、普段意識していることは何か。
- ③ 学級経営（学級づくり）について、普段意識していることは何か。

1 指導用ルーブリックで重視する項目（割合）※1人が2つ選択

視 点	1 目指すべき目標・評価規準の設定等	2 主に主体的な学びの視点	3 主に対話的な学びの視点	4 主に深い学びの視点	5 学びの評価・振り返り
回答者の割合	69%	44%	31%	17%	39%

指導用ルーブリックで重視する項目については、「**視点1 目指すべき目標・評価規準の設定等**」の回答が69%と最も高く、子供の学力を特に伸ばしている教師の約7割が回答した。このことから、ルーブリックの5つの視点の中でも、授業前に**本時の適切な目標**や**評価規準を設定**することや、**学習意欲を高められるような導入場面**を設定することは特に効果的であることがわかる。

2 授業づくりにおける留意点

ポイント① 「目標（教師のねらい）」に対応した「評価規準」の設定

○**本時の目標3 Step**～指導用ルーブリック（視点1 目指すべき目標・評価規準の設定等）に関わって～

- ① 学習指導要領（各教科解説編）、教科書（及び指導書）、年間指導計画等の資料を確認する。
※『どのような活動（★1）を通して、どのような資質・能力（★2）を育む』ことを目指すのか。
- ② 子供たちにどのような変容を期待するのか、授業後の**具体的な子供の姿**をイメージする。
(例 ～のように書くことができる、～をつかい～と説明ができる、～することができる…等)
- ③ **目標の達成につながる問い**にする。
(例 【○…なぜ～なのか、その理由を説明しよう。】 【×…～を考えよう。】)

○**本時の評価3 Step**～指導用ルーブリック（視点5 学びの評価・振り返り）に関わって～

- ① 目標の観点と**同じ観点**で、評価規準を設定する。(観点は多くても2つまで)
- ② 評価する**場面（どこで）**・**評価方法（どうやって）**を指導案に明記する。
- ③ 評価規準に達していない子供への**支援も具体的に記述**する。

例：中1 数学科 題材名「平面図形」

【本時の目標】

基本の作図を利用して、いろいろな角の作図方法を考え、説明することができる。

(数学的な見方や考え方)

【本時の評価規準】

○…75°の作図方法を考える際に、垂直二等分線や角の二等分線の作図方法を利用し作図方法を考え説明している。

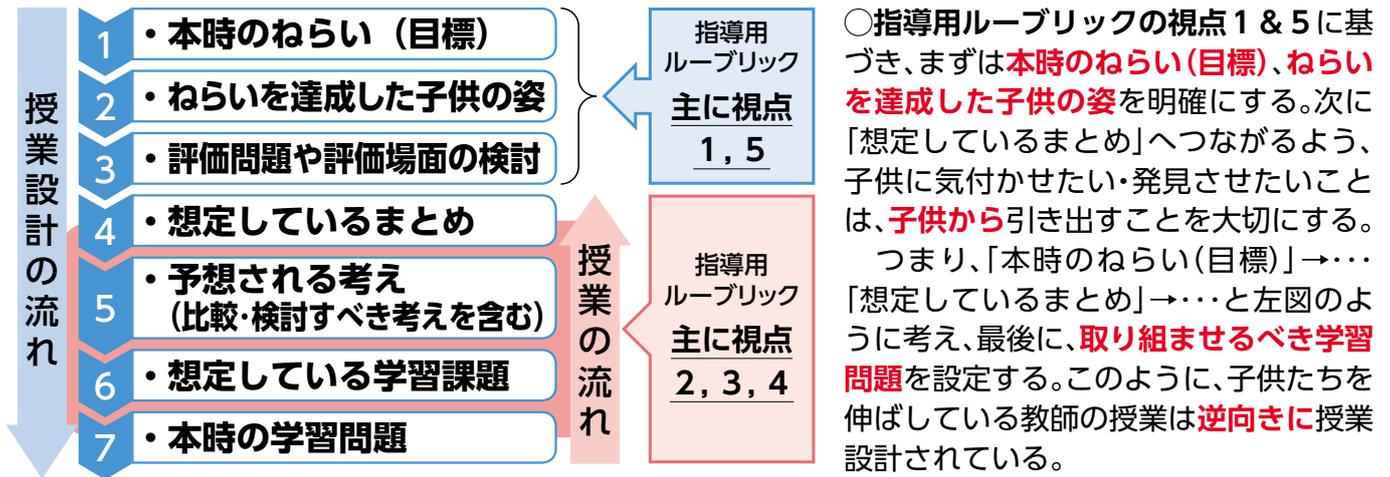
(数学的な見方や考え方)

×…基本の作図を利用して、75°の作図方法を作図することができる。

(技能)

この観点が**一致**するように設定する

ポイント② 逆向きの授業設計により、授業改善を実現



ポイント③ 潜在的な教育効果 (ヒドゥンカリキュラム) に意識を向ける

○潜在的な教育効果を意識する

- 教師の直接的な指導のみが子供に影響を与えるわけではない。**無意識にマイナスの教育効果**を与えることがあることにも留意する。

例：児童生徒によって対応を変えること。(下記の様な場合において)

指名する際に、生徒Aは「Aさん」、生徒Bはあだ名で呼んでいると、教師と2人の生徒の親しさの**違いを感じさせること**につながる。**このような教師の態度**は、生徒Bを特別視したり、人によって対応を変えてもよいと捉えたりすることにつながり、「**マイナスの教育**」となることもある。

※その他、下記のケースなど様々考えられる。

- 子供が教師の方を向かないうちに話を始める。→ 話を聞くときは、先生をみなくてもよい。
- 教師が一度決めた約束を変えてばかりいる。→ 約束は守らなくてもよい。

その他

○ユニバーサルデザインの視点での授業改善

- 子供が学習活動の見通しをもてるよう、具体的に指示する。

例：子供への指示は多くても2つまでとする。

「ちょっと…」「いっぱい…」などの曖昧な指示でなく、できる限り数値を用いたり、時間を用いたりするなど、**具体的なイメージ**がもてるような発問・指示とする。

3 主に学級経営における留意点

ポイント 一人一人を尊重した学級経営

- 学級として**個性を受け入れられるような雰囲気**、**いじめを許さない雰囲気**をつくる。
4月の学級開き、学期始め、学校行事の際などの節目や、子供同士の関わり合いが多くなる際に、自分とは異なった考えをもつ友達がいて「当たり前」ということを理解できるようにしていく。
- 人の**悪口を言うことを許さない雰囲気**をつくる。悪口を言ってトラブルになったときは、できるだけ早く指導する。(可能な限りその日のうちに。特に土日を空けずに話を聞き指導する。)
- 友達の良いところに気付いたり、互いに助け合ったりねぎらったりしている姿が見られたときには、**全体の前**で称賛し、**友達の良い所**を見付けたり伝えたりできる学級をつくる。

その他

○教師が学年全体で子供を育てるという意識をもつ。

特に、気になる児童生徒については、担任一人で対応することがないよう、学年間や管理職への**報告・連絡・相談 (ホウレンソウ)**を徹底し**チームでの対応**を徹底する。

指導用ルーブリックを基にした自己評価の結果等

平成30年度学校訪問で実施した、指導用ルーブリックに基づく授業の自己評価の集計結果により、授業改善の視点を示す。また、指導力向上や校内研究テーマに迫る指導の実現を目指すため、指導用ルーブリックを活用した授業研究会の進め方を紹介する。

1 平成30年度 授業の自己評価集計結果

視点	項目 <一部省略して記載>	割合 (%)	
1	適切な目標（「何ができるようにするか」）が設定できたか。	55.5	58.3
	目標を達成できたか評価できる評価規準が設定できたか。		46.4
	学習意欲を高められるような導入場面であったか。		61.7
2	本時の課題を正しく伝えることができたか。	55.3	79.3
	主につまずいている子供たちへの支援を準備し、実行できたか。		36.6
	適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。		58.3
	学習活動は、目標の達成につながっていたか。		46.8
3	子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できていたか。	59.2	74.9
	子供たちの考えを広げ深められるよう、教具（タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていたか。		63.7
	子供たちの考えを板書できていたか。		39.0
4	本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。	41.8	42.0
	子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。		43.7
	子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。		39.7
5	本時の子供たちの変容を評価することができたか。	42.6	27.5
	評価するための方法や場面を設定することができたか。		45.1
	本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。		55.2

～考察～

ルーブリックにおいて**授業の根幹**として捉える**視点1**の目指すべき目標と**視点5**の学びの評価については、それぞれ、55.5%、42.6%に留まった。これらについては、今後も日々の授業づくりで意識して取り組んでいくことが望ましい。（**視点1「目指すべき目標と評価規準の設定」**については、p3のグッドプラクティスを参照）

なお、**視点2～4**の各小項目において達成率が低かったものは以下のとおりである。

（青色の枠・・・40%未満）

- ・つまずいている子供たちへの支援 **（主に主体的な学びに関して）** (36.6%)
- ・考えを板書すること **（主に対話的な学びに関して）** (39.0%)
- ・子供たちが働かせていた「見方・考え方」の可視化 **（主に深い学びに関して）** (39.7%)

達成率が低かった上記のような項目は、今後一層重視すべき授業改善の視点であると考えられる。

2 授業研究会の進め方例

【事前】指導案検討等

～授業のねらい・手立ての共有～

- ・**授業者は**ルーブリックのチェック項目に従って、指導案を作成する。
- ・本時で身に付けさせたい資質・能力（本時の目標）を中心に**（学年で）**検討する。
- ※指導案検討の際は、必ず**視点1 & 5**について**共通理解**を図る。



研究授業

～子供の変容を記録～

- ・**参加者は**指導案に記載された『本時の目標』の実現に向け、子供がどのように学んでいるか、**目標に照らし、子供の変容を見取る。**
- ※**子供の発言、ノートへの記述**等を記録しながら参観。
- ※目標に迫るための手立てが有効であるか、**子供が学ぶ姿を記録。**



【事後】研究協議

～授業をとおした手立ての検証～

- ・**授業者は**子供が目標達成したか、**視点1 & 5**に基づき説明する。
- ・目標を達成するための方策を、**視点2～4**に沿って、**参加者全体**で協議する。
- ※**子供たちの変容**をもとに、手立ても効果的だったかを協議する。
- ※**評価が分かれた**視点や項目を協議する。



戸田型PBL(プロジェクト型学習)の考え方

PBLとは

これからの変化の激しい時代を生き抜くためには、**課題解決能力**や**創造力**を通じて、社会に価値を生み出す力が必要である。また、そうした力を発揮する原動力となる社会への**貢献意欲**や**探究心**も欠かせない。PBLは、こうした資質・能力を育てることを目的に、**子供たちが主体的に、仲間と協力しながらプロジェクトや課題解決に取り組む形態**であり、主体的・対話的で深い学びの授業改善を追求した方法の1つである。

Type PBLにおける活動の種類

PBLの核となる子供主導の活動には以下のような種類がある。課題によりこれらを組み合わせる設計することが考えられる。

① 課題解決活動

現実社会の課題の解決策を追求する活動
(課題例)

- ・高齢者にとって住みよい街づくりをしよう
- ・地域の川の水質汚染を改善しよう

② 制作活動

創造力を発揮しアイデアを形にする活動
(課題例)

- ・地域のゴミ問題を解決する道具を発明しよう
- ・環境保護を呼びかける動画を作ろう

③ 探索活動

特定のテーマについて子供たちが自由なアプローチから探索し、理解を深める活動

テーマへの理解深化や課題発見を目的とする活動として、上記①②の活動の前段階に設定することも考えられる。

(課題例)

- ・生命の起源を探ろう
- ・公共交通機関が地域の中で果たす役割を探ろう

Type 効果的なPBLの5つのポイント

● 子供主導

PBLは、子供たちの貢献意欲や探究心を原動力として、子供主導で進行する。教師はサポーターの役に徹する。

● 批評に基づく企画案の推敲

子供は、最初に思いついた案をそのまま形にするのではなく、企画段階で何度も他者からの批評を受け作り直す。

● 本格的な発表・実践の場

子供はアウトプットを意識してこそやる気が出る。プロや地域も巻き込んだ魅力的な発表・実践の場を設定する。

● 現実社会とのつながり

子供はホンモノ志向である。課題設定や活動内容、発表などの場における、現実社会との関わりが鍵になる。

● 産官学民との連携

本格的なPBLの設計や運営のためには、企業等との連携が学校や教師にとっての強力な助けになる。

PBLの授業づくり例 (③探索活動+①課題解決活動)

単元名

高齢者と共に生きるためにわたしたちができることを考えよう。

学習内容

日本は、高齢化社会を迎えることとなる。高齢者のことを知り高齢者と共に生きるためには、どのようなことができるのか、自分なりの解決策を考え、地域社会に向けて提案をする。

本単元の目標

高齢者福祉について多面的に考えることができる。
高齢者と共に生きるための方法について、現実的で効果的な課題解決を行うことができる。

導入 プレ・アクティビティについての説明

プレ・アクティビティ (本単元を理解するための活動) 高齢者施設で高齢者と楽しくふれ合うための方法の追求

インプット

・高齢者体験をする・インタビューをする・町会を訪問する等。

プランニング

グループで考えた案を友達や地域の方(第三者)から批評してもらいブラッシュアップする。

アウトプット

高齢者施設を訪問し、お年寄りと一緒に楽しくふれ合うことを実行し、参加したお年寄りや教師、友達からフィードバックしてもらう。

リフレクション

アウトプットの場における気づきをまとめる。

実生活との
つながり

プレ・アクティビティでの学びや気づきをもとに子供自らが考えたグループ課題を設定

メイン・アクティビティ (本単元の課題を解決するための活動) 高齢者のために自分たちができるとの追求

インプット

・高齢者施設を再度訪問する・インタビューをする
・町の様子を調べる・市で取り組んでいることを調べる・統計データなどの様々な資料を分析する・他教科で学んだ内容を関連させる等。

インプットとプランニングを繰り返しながら、課題解決にせまる。

プランニング

自分が考えた案(町の中の段差をなくす、便利グッズを施設のお年寄りに使ってもらおう等)を友達、施設の方、専門家の方(第三者)から批評してもらいブラッシュアップする。また、最終案の発表のための準備をする。

アウトプット

グループごとに解決策を発表し、高齢者施設のお年寄りや専門家の方、教師、友達からフィードバックしてもらう。

実社会との
つながり

リフレクション 活動での気づきを自覚
高齢者福祉について自分たちの生活との関わりや今後、考えていかなければならないことは何か等を捉える。

★個人単位でプロジェクト全体を通じての振り返りをじっくりと行い、課題解決から得た様々な気づきから、**高齢者福祉について多面的に考えられるようにする。**

プログラミング教育の授業デザイン

「プログラミング的思考」とは

「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(小学校学習指導要領総則編解説(H29)より※中学校においても同様と解釈)

具体的には

抽象的な課題を、解決可能な具体的なタスクに落とし込み(分解・記号化)、解決のための道筋を考えたり、タスクの組み合わせを試行錯誤したりしながら、よりよく問題解決を実行する力。

※ プログラムに使われる言語やコーディングスキルは、時代とともに移り変わる知識である。プログラミング教育においては「プログラムを組むこと」自体が目的ではなく、いつの時代にも普遍的な「考え・実行する力」として、論理的思考力だけでなく、創造的な問題解決能力も含むものとしてプログラミング的思考を捉える必要がある。

プログラミング的思考を育成する授業【6】のポイント

H30プログラミング・ICT教育研究推進委員会作成

導入

1

適切な課題提示を行う

本時の目標と正対する課題を提示する。他の学習と同様に、プログラミングを通して**子供が何を考え、学ぶのか**を明確にした課題を設定することが重要である。また、課題提示は、基本的な操作の確認など「**教えるべきこと**」をしっかりと押さえた上で行うなど、**提示するタイミング**を考慮し、子供たちが設定した学習課題にしっかりと向き合うことができるようにする。

2

解決の見通しをもたせる

「さあ、やってごらん」と始める前に、まずはどうすれば課題の解決ができるのか、子供たちが**解決の道筋**を考えられるようにする。ビジュアル・プログラミング(Scratch等)であれば、使用するブロックを考える活動やワークシートを活用してフローチャートなどを「書く」活動を取り入れることなどが考えられる。



3

協働的に問題解決させる

プログラミングを行う際には、授業の目標に応じた**学習形態を工夫**する。その上で、子供たちの考えが全体に共有されたり、深まったりすることができる場を設定する。1時間の授業が黙々と作業を続けるものであることは避け、**適切に協働の場**を設定することが大切である。



4

デバッグの場をつくる

「デバッグ」とは、プログラムの**誤りを発見し、修正・改善**することであり、プログラミング的思考の育成において重要な要素である。教師が間違えたプログラムを提示する、子供のつまづきを取り上げ、全員で解決方法を考える、友達のプログラムと見比べる活動や、思考を可視化するワークシートの工夫などが考えられる。



5

机間指導を充実させる

教師は**思考を促す声かけ**を中心に机間指導を行う。その他にも、子供の試行錯誤の様子など、望ましい学び方を取り上げて**価値づける**ことも必要である。また、プログラミングの授業ではPCの操作支援が必要になることも多いため、計画的にICT教育支援員とTT指導を行うようにする。



展開

6

振り返りを行う

子供たちが**課題に正対した振り返り**を行うことができるようにする。プログラミング的思考に関わる振り返りの他、身近な生活上のプログラミングへの気付きや、学びの発展に関する振り返りを共有することで、主体的な**情報活用**の態度の育成にもつなげるようにする。

終末

これらのポイントを押さえることでアクティブ・ラーニングの実現にもつながります

各教科等で取り組む場合のポイント

各教科等においてプログラミング教育に取り組む際は、プログラミングが**各教科等の学びをより確かなものにするためのツール**として、単元や本時の中で位置付くようにする。このため、授業の目標や評価、提示する課題も各教科等のものとし、プログラミングが目的化しないようにする。

リーディングスキルの視点に基づく授業改善

リーディングスキル (RS) とは、**汎用的な基礎的読解力**であり、教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味および意図を、迅速かつ**正確**に読み取る力である。また、国立情報学研究所 (研究代表者：新井紀子教授) が考案した**リーディングスキルテスト (RST)** は、人間の読解プロセスから導き出された以下の**6つの問題**から、その力を測っている。

①「係り受け解析 (DEP)」

・主語・述語や修飾語・被修飾語など、文を構成する要素の関係 (=係り受け) の理解について問う。

②「照応解決 (ANA)」

・「それ」「これ」などの指示代名詞が何を示すか (=照応) の理解について問う。

③「同義文判定 (PARA)」

・二つの文が同じ意味を表すかどうかを判断する力について問う。

④「推論 (INF)」

・文の構造を理解した上で、体験や常識、その他の様々な知識を動員して文章の意味を理解する力を問う。

⑤「イメージ同定 (REP)」

・文章と図形やグラフを比べて内容が一致するかどうかを認識する力を問う。

⑥「具体例同定【辞書、理数】 (INST)」

・文章で書かれた定義を読んで、それと合致する具体例を認識する能力を問う。

左の問題例は、「教育のための科学研究所」HPから見られます。



下記のポイントは、毎時間必ず取り入れなければならない活動ではなく、問題の意図を正しく捉えられるよう**学習場面に**応じて取り入れたり、**児童生徒の個に応じた指導**に取り入れたりするなど、教師が目的に応じ、取捨選択し取り入れることが望ましい。

【授業改善のポイント】 ~上記の①～⑥の視点から考える~

①係り受け解析

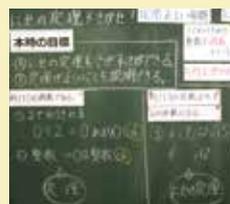
- ・「それ」「これ」等、**指示代名詞が示す言葉**に下線を引ながら読み取らせる。
- ・主語が書かれていない文章 (書かれている文章についても同様) は、教師が**意図的**にその文章の**主語を問うたり、補うように指示したり**する。
- ・ (意味が分かるようになるまで) **繰り返し**読むよう指示する。
- ・文章を音読したり、視写したりする学習活動を取り入れる。

②照応解決

③同義文判定

④推論

- ・**言葉の定義や意味を正しくおさえた上で**、文章を読み取り考えたり、話し合ったりする活動に取り組めるようにする。
(正しい定義や意味が分からないときは、**必ず調べる**よう指導する。)
- ・「ならば」「すべて」「いつも」「~のとき」「以外の」「ではなく」「もある」などの言葉の**正しい使い方**を身に付けさせる。
- ・「**~だから…です**」のように、既習事項等を根拠として、新しい知識を獲得していく場面をつくる。



⑤イメージ同定

⑥具体例同定

- ・文章を読み取る過程では読み取ったことを、整理したり考えを深めたりするために、**図的表現 (簡単な絵なども含む)** を用いて考えを進めるようにする。
- ・**意味が分からない言葉 (理解が曖昧な場合も)** が出てきたら、辞書やインターネットを使って調べる習慣を身に付けさせる。
- ・イメージや受け取り方が異なる「言葉」は、**具体的な様子**を全体で共有しておく。
【例】「工夫して計算しよう」の「工夫して…」とは？
- ・新しく学んだ (理解した) **言葉を使って**文章を書いてみる。
- ・**指定された文章に合う図**やグラフを子供たちが選択するような場면을意図的に設ける。



~授業例~
にせの定理を探せ
(中2数学)

~授業例~
オセロの実況中継
をしよう
(小4国語)
図形を並べよう
(小4算数)

Point ! ~日々の授業で、教科書等を「正確に読むこと」を大切にしましょう~

- 問題提示・発問・板書計画・学習プリント作成など、**授業改善をRSTの視点から実施する。**
- 子供たちが**考える機会**をより多く設定すること。(正しく読まなければならないという必要感を大切に
にした授業づくりについて)

★過去の研究や上記の授業例は、平成29・30年度戸田市教育研究集録を御参照ください。

多層指導モデルMIMを用いた「読み」の流暢性の育成

読むことへの課題を抱えている子どもが多い

学習障害 (LD) の子供は、通常の学級に約4.5%の割合で在籍するとされ、その中でも読む能力に困難がある子供が多いと言われている。

また、ひらがなの習得の遅れやつまづきは、その後の読み書きの困難につながる。

小学校の低学年から読みについての効果的な指導が必要となる。

多層指導モデル MIM の活用が効果的

「MIM」(Multilayer Instruction Model)とは通常の学級で異なる学力層の子供のニーズに対応し、アセスメントと指導を繰り返しながら子供たちの読みやすさを育むための指導・支援をするモデルである。
特に低学年からの活用によって大きな効果が見られる。

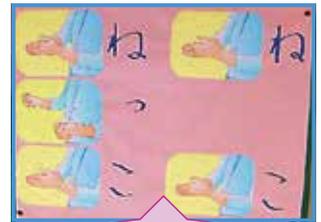
「読み」の流暢性 (文字や語を正確に素速く読むこと) を育むための指導のポイント

① 読みのつまづきで多くみられる「特殊音節」(のびる音、つまる音、ねじれる音)を正確に読むことができるようにする。

★ルールを明確化 (視覚化や動作化を通じた音節構造の理解) する。

- ・視覚化では
促音、長音、拗音、拗長音の音節構造に合わせて視覚化を行い、音のイメージを捉えやすくする。(例) ねこ→●●、ねっこ→●●●
- ・動作化では
目に見えない音の特徴を具現化することにより、特殊音節のルールを学ぶ。音と動作、文字を対応させる。
(例) ●については手を一回たたき、小さい●については両手をグーに握り、音を出さないようにする。

【MIM使用教材例：ことば絵カード・ちょっとプリント・3つのことば探し】

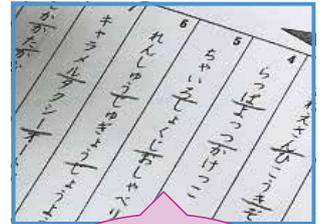


促音「っ」について、動作化し、音と動作、文字を対応させる。

② かたまりとして語を捉えることによる読みの速度の向上

★視覚性語彙 (一目見ただけで、その語をなんと読むか、どういう意味か認識できること)を増やすことにより、読みのスピードを増し、読むことへの疲労感の軽減をはかる。

【MIM使用教材例：ルール説明用カード・ことば絵カード】



3つのことばさがしを活用し、かたまりとして語を捉えられるようにする。

③ 日常的に用いる語彙の拡大と使用

★語や文を自分の中で豊かにイメージできるよう、語彙を増やし自由に操る力を養う。

【MIM使用教材例：はやくちことばしゅう・ことばあつめ・もしも作文】

全体から個へ 効果的な3層構造の指導体系

1stステージ 通常の学級内での効果的な指導

- ・全児童に対して、効果的な授業を行うとともに、朝学習等の隙間時間に特殊音節や読みの流暢性の定着をねらった日常的な活動を取り入れる。

2ndステージ 通常の学級内での補足的な指導

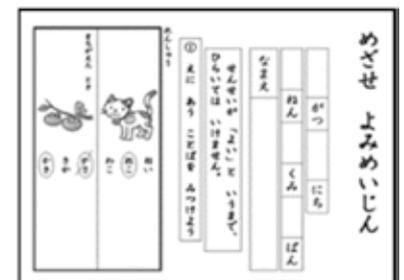
- ・説明は学級全体の児童に対して行うが、その後の個別学習については、個別支援を必要とする児童を重点的に指導する。

3rdステージ 補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導

- ・1stステージ、2ndステージでは、伸びが乏しい児童に対して指導を行う。

子供の伸びを捉えるアセスメント (めざせ よみめいじん)

- ・月に1回程度実施する。
- ・テストは2種類行う。
- ・通常の学級で一斉に行う。
- ・各テストは1分ずつで実施。(説明、配布、回収で約10分)
- 定期的、継続的に実施することで子供の伸びについて把握することができる。



一斉指導



個別支援

アセスメントと指導のサイクルを回すことによって、指導効果が高まる。



★MIMの効果的な活用の紹介★
「特殊音節指導の工夫」と検索
→『【東書Eネット】【東書教育シリーズ】動画で分かる！特殊音節指導の工夫』

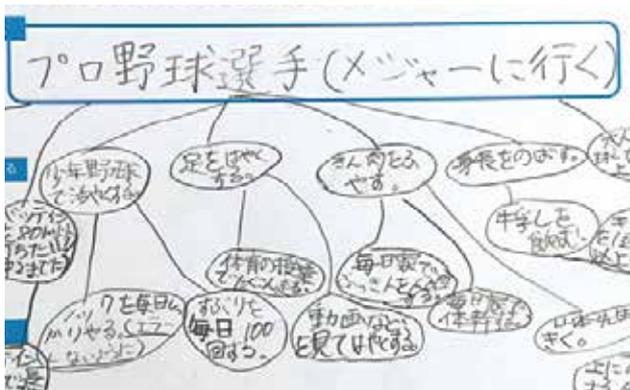
セサミストリート・カリキュラム

セサミストリート・カリキュラムは、学年ごとに「目標と選択」「方法と手段」「価値の理解」「多様性とインクルージョン」の4カテゴリー12プログラムで構成され、セサミストリートのキャラクターと共に学ぶ教材が準備されている。各学校の課題に応じてプログラムを選択し、「主体的に判断する力」「協働する力」「新たな価値を創造する力」「多様性を理解する力」などを育成する。



児童のワークシートから見る各カリキュラムの内容

目標と選択 1 夢をえがく 2 目標をたてる

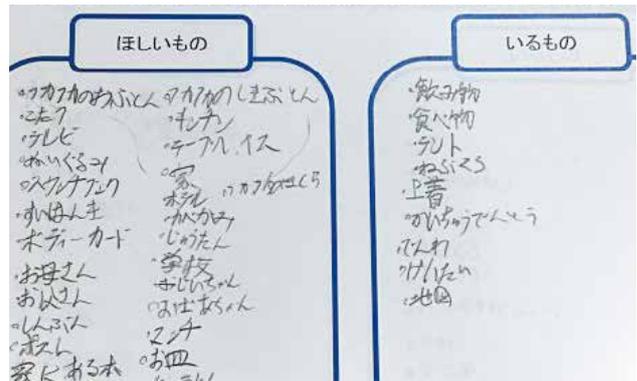


実践例

「将来の夢をかなえるために計画と行動を考えよう」

「なりたいもの」や「やりたいこと」を言語化し、自己実現に向け、行動するための計画をたてる。グループでの話し合いを通して、実現のための様々な方法を知る。

価値の理解 7 お金の理解 8 価値の理解 9 人の価値観

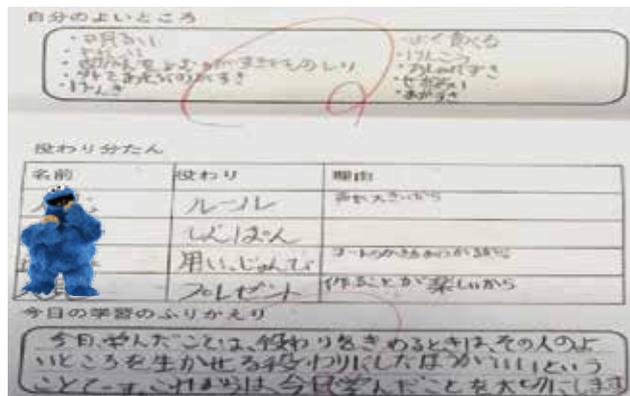


実践例

「海へ行くときにほしい物という物について考えよう」

海へ行くときに「ほしい物」と「いる物」について個人で考えた後に、グループでの話し合いを通して価値観の多様性に気付く。また「ほしい物」と「いる物」の違いを理解する。

方法と手段 3 計画をたてる 4 行動する 5 問題を解決する 6 コラボレーション

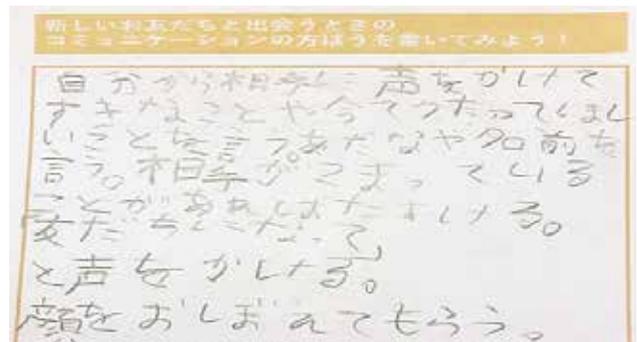


実践例

「役割について考えよう」

自分の得意なことや特徴を考え、グループでの話し合いを通して、それぞれの長所を生かしながら役割分担をする。自分の役割を理解して行動する資質を育てる。

多様性とインクルージョン 10 社会的スキル 11 多様性の理解 12 インクルージョンの実現



実践例

「いろいろなコミュニケーションの方法を知り、みんなの考えを認め合おう」

自閉症スペクトラムのジュリアに初めて会うときにどんなコミュニケーションをとるかを考え、ジュリアへの接し方や様々な個性について理解する。

「指導の重点・主な施策」バックナンバー

H
30
版



「考え、議論する道徳」への質的転換



新しい学び
・経済教育
・セサミ



戸田市の新しい英語教育



インクルーシブ教育システムの推進

H
29
版



ICT利活用
7+2



協調学習の進め方



思考ツールの活用



授業のUD化
5つのチェックポイント



戸田市の教育改革の取組 (平成31年度版)

戸田市が目指す
「世界で活躍できる人間」

世界に関心を持ち、地球規模で未来を考えることができる子
自分の力を他者や社会のために使いたいという意欲を持つ子
多様性を理解し、他者と協働して問題の解決に取り組める子



SEEP S: STEAM (Science, Technology, Engineering, Art and Math) E: EdTech (Education x Technology) P: PBL (Project-based Learning)

1 EBPMの推進

優れた指導法や教育施策を質的・量的の両方の観点で分析し、授業改善や政策立案に生かす。

「教育政策シンクタンク」(仮称)設置
エビデンスベースでの政策づくりを自律的に推進するための組織の立ち上げ
★多様なスキルを持った教育行政プロの採用

外部との共同研究

- ★慶應義塾大学等：埼玉県学力調査の分析による非認知能力と学力の関係など
- ★筑波大学：特別支援教育に関する研究
- ★国立情報学研究所、(社)教育のための科学研究所：リーディングスキルの観点からの授業改善
- ★埼玉県教育委員会：県学力調査と教員質問紙調査を活用した優れた指導法の分析
- ★(株)ベネッセ：「ミライシード」を活用したR・PDCA支援モデル
- ★(株)LITALICO：
①ユニバーサルデザインに基づく学級経営と授業実践
②ペアレントトレーニングの導入
③個別の指導計画策定システムの導入
- ★IGS (株)：GROWによる教育効果の可視化の研究

2 「授業力」の向上

これからの時代を生き抜くために必要な力を子供たちに身につけさせるため、授業改善をはじめ、すべての教育改革の取組を教室での子供の学びに結びつける。

アクティブ・ラーニング推進のための「戸田型授業改善モデル」
本市独自のルーブリックを核として多角的な授業改革の取組を実施する。

「子供たちに身につけさせたい力」は何か

- 各学校における具体的な教育目標の設定と教師の意識改革
- ★具体的な教育目標を設定した「授業力向上プラン」の作成
- ★非認知スキル育成プログラム」の活用
- ★本市で作成した「資質・能力ルーブリック」の活用

子供たちが何何を学ぶか

- 基礎的な知・徳・体の効果的・効率的な習得
- 産官学民との連携による新たな学びの実践
- ★各学校への産官学民の連携メニューの提示や導入のサポート

子供たちがどう学ぶか

- アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の推進
- ★本市の作成した「学習指導ルーブリック」の活用促進(学校訪問時の指導、研究協議会での活用等)
- ★県学力調査・全国学力調査等の分析結果のフィードバック
- ★学校訪問改革、校内研修の活性化
- ★県学力調査や教員調査によるルーブリックの検証、改善
- ★(NPO)Teach for Japan：民間の知見や高い社会人力を活用した教育実践
- ★(株)キャリアリンク等：質の高い教員研修の実施
- ★(株)Findアクティブラーナー：優れた教育実践の動画配信、オンライン研修

5 多様なニーズへの対応

一人ひとりのニーズに応じた支援の充実

- ★(教育相談体制の充実)
- ★東京メンタルヘルス (株)：全小中学校にスクールカウンセラーを配置
- ★東京メンタルヘルス (株)：教育センターに教育心理専門員、スクールソーシャルワーカーを配置

3 新たな学びの推進

AI(人工知能)では代替できない力やAIを使いこなす力を身につけるため、[21世紀型スキル]「汎用的スキル」「非認知スキル」を育成する。

PEERカリキュラム

P: プログラミング教育

- ★生活科、総合的な学習の時間で一定時数を確保
- ★(株)ソニー・グローバルエデュケーション：教材提供
- ★(株)アーテック：教材貸与、教材の使い方の講座
- ★インテル(株)：教材提供、教員研修
- ★(社)CEEジャパン：教材「Bee-Bot」の提供

E: 英語教育(中3で英検3級取得率70%以上が目標)

- ★小学校低学年からの実施、モジュール
- ★英検の検定準拠(小6、中3)
- ★教師の英検取得率に関する調査

E: 経済教育(社会の動きや経済の動きについて身近な題材を通して学び、より良い生き方を考える授業)

- ★生活科、総合的な学習の時間で一定時数を確保
- ★(社)CEEジャパン：経済教育の授業の実践、市民大学での経済教育マイスター育成

R: リーディングスキル(リーディングスキルの実態把握とその視点からの日々の授業改善)

- ★リーディングスキルの考え方や授業改善事例等をまとめたリーフレットの作成
- ★国立情報学研究所、(社)教育のための科学研究所：リーディングスキルテストの実施、結果の分析と活用

戸田型PBL(プロジェクト型学習)

- ★戸田型PBLの手引きの作成
- ★(財)日立財団：企業講師によるプロジェクト型探究学習プログラム
- ★インテル(株)、(株)リハネス：企業講師のデモを取り入れたプレゼンテーション大会の実施
- ★劇四季：美しい日本語の話し方教室

豊かな心の育成

- ★(NPO) Sesame Workshop：セサミストリートカリキュラムの開発
- ★LINE(株)：情報モラル推進
- ★「考え、議論する道徳」の推進、デジタル教科書の活用

体力向上

- ★プロトレナーによる小学校低学年への体力向上プログラムの実施
- ★プロトレナーによる部活動サポート
- ★青山学院大学、日本体育大学：体育の授業での大学生のサポート
- ★西武ライオンズ、(NPO)戸田スポーツクラブ：体育の授業等への講師派遣

(特別支援教育)

- ★専門アドバイザーによる特別支援担当教員の指導
- ★(株)LITALICO：学校への訪問支援、共同研究
- ★獨協医科大学：発達障害専門医による医療相談
- ★筑波大学：特別支援教育に関する研究
- ★(日本語指導)
- ★日本語指導担当教員、日本語指導員の配置
- ★(家庭学習支援)
- ★放課後補習授業

(不登校支援)

- ★(株)学研教育みらい：教育支援センター「すてっぴ」の体制強化
- ★ひさこもりの児童・生徒へのアウトリーチ型支援
- ★筑波大学等：ピアサポーター制度の活用
- ★(財)こども教育支援財団：不登校対応相談員への研修(いじめ対策)
- ★(いじめ防止)基本方針、「いじめ根絶ヒースプロジェクト」
- ★電話相談、SNS相談の一部導入

4 EdTechの推進

教育とテクノロジーの融合による新たな学びの推進

(主にICT環境の整備面)

- ★(株)Loilo:「ロイノート」の思考ツールを活用したアクティブラーニングの推進
- ★Google:タブレット型PC「クロムブック」の3000台導入(小:2000台、中:1000台)
- ★(株)ベネッセ、(株)富士電機ITソリューション:ICT支援員の各学級への定期派遣

※その他、「3」の新たな学びをはじめ各取組において推進